

くしまっ子

ボーイズリーグの全国大会へ九州選抜選手として出場



試合では1番バッターとしてバッターボックスに立ちます

4月に熊本県で開催された中学硬式野球の九州大会、第19回日本少年野球熊本大会で串間市の中学硬式野球チーム、「宮崎くしまっ子」が初優勝しました。その中で、13打数9安打の成績を残し最優秀選手に選ばれた谷口翔生くん。

8月に開催されるボーイズリーグの全国大会、「第20回記念鶴岡一人記念大会」で九州選抜チームの選手の一人として出場します。監督の税田博人さんは、「走攻守三拍子がそろっておりチームの要。今後の大会でもベストを尽くし、最終的にはプロ野球選手になれるように頑張つてほしい」と今後の活躍に期待します。



27. 谷口 翔生くん

串間中学校3年生。小学2年生から野球を始め、第19回日本少年野球熊本大会で最優秀選手に選ばれた。ポジションはキャッチャーとショート。

谷口くんは、父親が野球をしていた影響で小学2年生から野球を始め、中学1年生からくしまっ子に入部。週4日の練習で日々汗を流しています。チームの特徴

やるぞ!



太鼓で串間を元気に

串間くるみ太鼓保存会が取り組む活動

ある土曜日の午前中、串間市民文化会館大ホールに太鼓の音が響き渡ります。練習しているのは串間くるみ太鼓保存会の皆さんで、指導を行うのは、同保存会会長の袁輪誠治さん。

串間くるみ太鼓保存会は、都井岬火祭りや福島港初セリ、森林祭りなどのイベントで演奏を行い、地域活性化のため尽力されています。また、福祉施設慰問で演奏し、ボランティア活動も行っています。

串間くるみ太鼓保存会は、昭和60年に袁輪さんの父が中心となり、大東、胡桃ヶ野（くるみがの）地区で地域コミュニティの発展に寄与することを目的に立ち上げられました。現在、会員数は29名で、保育園児から大人の方まで幅広い年齢層で構成されています。

袁輪さんは、父の影響で幼少時代から太鼓を始め、4年前から会長を務めています。毎週土曜日、日曜日の週2回太鼓の指導を行う傍ら、平日は市内の保育園や小学校、福島高校で太鼓の指導を行っており、子どもたちと交流を通して太鼓の魅力を伝え、太鼓の普及・技術継承を推進しています。さらに、日南市の居酒屋で6年間店長をしていた経験を生かし、昨年7月に独立し、串間市内で「くしま

酒場わっしょい」をオープン。夜は店長として働いています。「忙しいですが、やりがいを持ってやっているのを楽しんでいます」と袁輪さん。

太鼓の魅力を知ると、「太鼓は誰でも音を出して自分を表現できる。また、みんなで一緒に音を合わせて出す時の力強さと躍動感がたまらないですね」

普段は、子どもたちが出場する大会に向けての練習が中心となっています。「練習では厳しいことも言いますが、息抜きに釣りや山登りに連れて行って子どもたちと親交を深めています」。日頃からの子どもたちに対する愛情ある接し方もあって、生徒達は辞めずに太鼓を続けているそうです。「先日、仕事終わりに昔の教え子達からサプライズで誕生日のお祝いをしてもらい、夜中まで語り合えて非常に嬉しかったです」と話す袁輪さん。

今後も「串間を太鼓で活性化し盛り上げていきたい。新たなイベント作りができれば」。また、「11月に子どもたちが出場する大会で上位入賞し、全国大会へ出場したい」と袁輪さん。

今後も、太鼓を通して串間を元気にできるように、串間くるみ太鼓保存会の活動は続きます。



袁輪 誠治さん (福島地区・上小路)

串間くるみ太鼓保存会会長および串間酒場わっしょいの店長を務める。趣味は太鼓。



串間太鼓フェスの様子



子どもたちを指導する様子



串間で活躍する人を紹介します
きらめき図鑑
kirameki

地域おこし協力隊

活動日記

vol.27

海も山も 地域おこし協力隊的くしまの楽しみ方

世古 直之さん



平成28年8月から始まった地域おこし協力隊の活動も7月で3年の区切りを迎え、いよいよ活動終了となります。都心部で生活してきた外からの目線でアイデアを出し串間を活性化してほしいと言われたのはずいぶん前のような感覚で、今では、すっかり串間の生活にも慣れ、元気盛りだくさんの2児を育て

る子育て真っ只中の一市民になっています。外遊びが大好きになった子どもを連れて週末は、高松海水浴場、恋ヶ浦、夕方から都井にアジゴを釣りに行ったり、春駒を見に行ったりと今の環境を十分に楽しんでいます。少子高齢化が進み街に活気がなくなっていると言われてはいますが、自分にとっては住めば住むほど魅力を感じている地域です。住人にとって渋滞がないのは、時間を有効活用できるし、集中して物事に取り組みます。また、サーフィン、釣り好きなら都井岬周辺は、魅力のある地形だってわかるはず。さらに、焼酎文化は、水がいい証拠だし、産業が少ないというのは、自然が豊かな証拠です。

地域の方に暮らしの知恵を聞けばたくさん出てくるし、都心の物差しでは、測ることの出来ない「くしまらしい」物事があるんだと感じています。地域おこしにゴールはありません。答えもないと思っています。この3年間を通して自分が何が出来るのか自問自答しながら活動してきましたが、出会った人とのつながりが出来始めたのが一番の成果です。これからは椎茸栽培を仕事として本城地区に根付いていけるように、地域の方々と歩調を合わせながら暮らしていきます。3年間、関わった方々本当にありがとうございました。